

鳴門教育大学大学院

言語系コース(国語)日本語教育分野の すべてがわかる冊子

—2016 年度版—



鳴門教育大学大学院 言語系コース(国語)日本語教育分野

〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748 番地

国立大学法人 鳴門教育大学

0. コースからのメッセージ

あなたは、「自分の母語である日本語」の特徴を、うまく説明できますか。母語として、国語科学習では「むずかしい」語彙に苦労したことは記憶に残っていても、「ことばそのもの」に目の覚めるような驚きを覚えた記憶はあまりないことでしょう。「日本語の特徴」は、それではなかなか、つかまえられません。

「日本語教育」の実践研究は、2つの点で大きな価値をもっています。
1つ、生活語・文化語としての「日本語の全体像」を鮮やかに自覚できる。
2つ、切実な「誰かの日本語習得」を助ける、という手応えと充実感が手に入る。

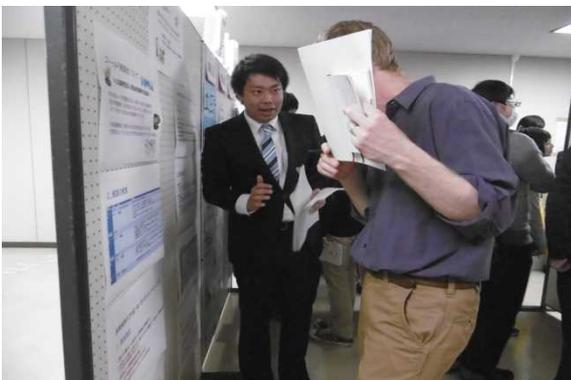
鳴門教育大学大学院日本語教育分野の教員スタッフは両方のニーズに応える強力メンバーです。母語としての国語科教育にたずさわる教師たちが、みんな「日本語教師」としての実力をもっていたら、きっとすばらしいことが起こるでしょう。教わる子どもたちは、日本語を使えるだけでなく、よく知り、愛情をもち、自ら育てていくようになるはずです。

小学校に本格的に導入されようとしている英語科教育が、日本の子どもを外に向かって押し出すことを目指すのに対し、日本語教育は、日本語と日本文化のなかに外から人を招き入れる仕事です。

この2つは、未来を切り開く「第二言語教育」の両輪です。母語を用いて心と思考力を育てていく「母語の教育（国語科教育）」と、日本語・英語などの「第二言語教育」は、お互いを基盤とし、同時に発展となることが出来ます。それは必ず、日本の「ことばの教育」をより力強いものにしていくでしょう。

その実現は、今日本語教育の扉の前に立っている「あなた」の肩にかかっています。

鳴門教育大学大学院言語系コース（国語）「日本語教育分野」に、ようこそ！



1. 鳴門教育大学大学院日本語教育分野の“おいしい”ところ

①魅力的で多彩な科目から自身の専門性に沿ったカリキュラムが組める！
大学院での学び方は十人十色！

②日本語教育学を専攻しながら国語科教育学の科目も受講できる！
逆に、国語科教育学を専攻しながら日本語教育学の科目も受講できる！

③日本語教師養成 420 時間修了証と教員免許状(小・中・高)の両方が取得できる！

④教員免許を取得していない方でも3年で教員免許状を取得できる！
(学校教員養成プログラムを受講)

⑤現職教員、ストレート進学の学生、留学生など様々なバックグラウンドを持った学生が参加するため、視野が広がる！

⑥ゼミナールでは、少人数制で、きめ細かい研究指導を受けることができ、研究成果を国内外の学会で発表できる！

2. 鳴門教育大学大学院言語系コース(国語)日本語教育分野ってどんなところ？

日本語教育分野では、外国語あるいは第二言語としての日本語教育を担う人材の育成をめざし、日本語の特質、教授・学習の方法、カリキュラム開発を研究します。教員養成大学として、日本語教育にかかわる多様なニーズにお応えできるよう、丁寧な指導を心がけています。

こんな方にオススメ！！

- ・日本語を母語としない子どもや帰国子女を担当されている現職教員の方
- ・日本語教育の知識を身に付けて、学校現場や自治体などでこれから働きたいと考えている方
- ・教員志望で、大学院で教員免許を取得しながら、日本語教育について学びたい方(3年間の「学校教員養成プログラム」を利用)
- ・現在、日本語教育に従事している方で、専門性を高め、スキルアップを図りたい方
- ・将来、日本国内や海外で日本語教育に従事したいと考えている方
- ・大学院で本格的に日本語教育について学びたいと考えている方
- ・日本語についての専門性を高めたいと考えている留学生の方

日本語教育分野では、日本語教育のためのカリキュラム(420時間)を受講した修了者に、「日本語教師養成プログラム修了証明書」を発行します。

なお、外国人留学生の場合は、研究ならびに修士論文作成に必要な日本語能力(日本語能力試験N1(旧試験1級相当))を有していることが出願の条件になります。

3. あなたの知的好奇心をくすぐる講義科目群

鳴門教育大学大学院では、自身の専門科目だけではなく、心理学・英語教育学など他コースの科目も受講でき、ひとりひとりの興味関心、ニーズに合ったカリキュラムを組むことができます。言語系コース（国語）の講義科目及び選択必修科目は次の通りです。

◎修士課程言語系コース(国語)カリキュラム(※2016年度)

○専門科目(日本語教育系)

科目区分	授業科目	配当年次	単位数
専門科目	日本語教育学研究	1・2	2
	日本語教育学演習	1・2	2
	日本語教育法研究	1・2	2
	日本語教育法演習	1・2	2
	日本語文法研究	1・2	2
	日本語文法演習	1・2	2
	日本語音声表現研究	1・2	2
	日本語語彙論	1・2	2
	言語習得・発達論	1・2	2
	日本語教育実習	1・2	2
	対照言語学研究（隔年開講）	1・2	2
	社会言語学研究（隔年開講）	1・2	2
	社会言語学演習（隔年開講）	1・2	2

○専門科目(国語科教育系)

科目区分	授業科目	配当年次	単位数
専門科目	国語科教育学研究	1・2	2
	国語科教育学演習	1・2	2
	国語科授業研究	1・2	2
	国語科授業演習	1・2	2
	国語科教材開発研究	1・2	2
	国語科教材開発演習	1・2	2
	日本古典語研究	1・2	2
	日本古典語演習	1・2	2
	現代日本語研究（隔年開講）	1・2	2
	現代日本語演習（隔年開講）	1・2	2
	日本文学研究Ⅰ	1・2	2
	日本文学演習Ⅰ	1・2	2
	日本文学研究Ⅱ	1・2	2
	日本文学演習Ⅱ	1・2	2
	言語教育基礎論Ⅰ	1・2	2

○専門科目(留学生対象)・教職共通科目・教育実践コア科目・課題研究

科目区分	授業科目	配当年次	単位数
専門科目	日本語 I	1・2	2
	日本語 II	1・2	2
	日本語 III	1・2	2
	日本語 IV	1・2	2
	日本事情・日本文化	1・2	2
教職共通科目	現代の諸課題と学校教育	1・2	2
	学校教育の人間形成的役割	1・2	2
	子ども理解と生徒指導	1・2	2
	子どもの発達支援	1・2	2
教育実践コア科目	数学と芸術、そして科学間の接点を探る	1・2	2
	コミュニケーションと言語・教育	1・2	2
	伝統文化(音楽・美術)における表現の思想と技法	1・2	2
	子どもの規範意識の現状と課題	1・2	2
	教師のための声とからだとことば	1・2	2
	学校危機管理研究	1・2	2
	予防教育科学	1・2	2
	教育実践フィールド研究(国語科)	1・2	4
	教科内容構成(国語科)	1・2	2
課題研究	課題研究 I	1	4
	課題研究 II	2	2

また、通常のカリキュラム以外に、地域日本語教室での支援ボランティア活動、留学生との交流、海外からの教員研修留学生の研修クラス、徳島県内の公立学校での外国人児童生徒日本語支援など、個々のニーズに合わせたさまざまな場での学びから、日本語教育に関する知識経験を深めていくことができます。

〈修了要件〉

教職共通科目 4 単位、教育実践コア科目 8 単位、専門科目 12 単位、課題研究 6 単位の合計 30 単位以上を取得する必要があります。(学校教員養成プログラムは 1 年目に教員免許状取得に必要な学部の科目を履修、2 年目以降で大学院での科目を履修することになります。)

科目区分	単位数		合計
	1 年次	2 年次	
教職共通科目	4		4
教育実践コア科目	8		8
専門科目	12		12
課題研究	4	2	6
修了所要単位数			30

〈取得可能な学位〉

修士(教育学)

4. 教員・ゼミ紹介

言語系コース（国語）日本語教育分野には、日本語教育学（異文化間教育）と日本語教育学（日本語学・言語学）の2つのゼミがあります。

4. 1. 教員紹介（日本語教育分野担当教員のみ掲載）

①日本語教育学(異文化間教育)担当



小野 由美子 (ONO Yumiko)
特命教授

〔関心のある分野〕

- ・異文化間教育、異文化間コミュニケーションに関する研究
- ・成人学習理論に基づく、異文化体験の教育的意味の研究
- ・国際教育協力における日本の教育実践の導入・定着に関する研究

〔主な研究業績〕

- ・青年海外協力隊に参加した現職教員の意識変容のケースヒストリー（『鳴門教育大学学校教育 研究紀要』28, pp.75-86, 2014年（小野由美子・前田美子・中村聡））
- ・インドネシアにおける算数科授業研究の一考察（『鳴門教育大学国際教育協力研究』7, pp.21-27, 2013年（阿部建夫・小野由美子））
- ・「人種平等と民主化を求める学校—南アフリカ」（『新版世界の学校：教育制度から日常の学校風景まで』（二宮皓（編著）, pp.190-195, 学事出版, 2013年）
- ・A lesson study approach to improve a biology. (*African Journal of Research in Mathematics, Science and Technology Education*, 17(1-2), pp.14-25, 2013.(Chikamori, K., Ono, Y. & Rogan, J.M.))
- ・How Reflective are Lesson Reflection Sessions? Developing an Instrument to Analyze Collective Reflection. (*International Journal of Education*, 5(3), pp.52-56, 2013.(Ono, Y., Chikamori, K., & Rogan, J.M.))

〔主な担当授業科目〕

大学院：日本語教育学研究、日本語教育学演習、日本語教育法研究、
日本語教育法演習、日本語教育実習

J S L 児童生徒 日本語教育学 授業研究
異文化間コミュニケーション 教師教育 異文化間教育

②日本語教育学(日本語学・言語学)担当



田中 大輝 (TANAKA Daiki)
講師

〔関心のある分野〕

- ・現代日本語の名詞表現の記述的研究 (A サエ、A モ、A ヤ B など)
- ・統語論と意味論のインターフェイス (量化表現の作用域と意味解釈)
- ・言語使用者による知識の蓄積・整理・統合のメカニズムのモデル化
- ・日本語の項構造習得のための教育アプリの作成

〔主な研究業績〕

- ・「学生が求める「良い教師」の条件—日本の大学の外国語教育を事例として」 (*The Proceedings of the Sixth Japan-China Teacher Education Conference*, pp. 87-99, Naruto University of Education, 2015年 (吉川 巧也・田中 大輝))
- ・「顔見知りの相手に対する話題の切り出しについて—性別の違いと相手との関係性の違いに注目して—」 (『語文と教育』29, pp. 56-74, 鳴門教育大学国語教育学会, 2015年 (高井 春菜・田中 大輝))
- ・「地域の特性を活かした生活密着型の日本語授業の実践—鳴門日本語教室をフィールドとして—」 (『鳴門教育大学授業実践研究』14, pp. 51-58, 鳴門教育大学, 2015年 (戎田 優・オンター タナボディー・孫 維嬌・田中 大輝))
- ・「意見文課題における説得のアピールの日西対照研究—日本とスペインの学生の作文比較—」 (『教育実践学論集』16, pp. 95-107, 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科, 2015年 (西條 結人・田中 大輝・小野 由美子))
- ・「サエを含む文の産出と理解」 (『鳴門教育大学紀要』29, pp. 247-260, 2014年)

〔主な担当授業科目〕

学 部：日本事情・日本文化

大学院：日本語文法研究、日本語文法演習、日本語音声表現研究、

日本語語彙論、言語習得・発達論、日本語 I、日本語 III、

日本語教育実習

日本語学 といたて詞 さえ や
言語学 知識状態の変化 スコア

4. 2. ゼミ紹介

日本語教育分野所属の学生 2 人にゼミの紹介をしてもらいました。

①小野由美子ゼミ「日本語教育学(異文化間教育)」

日本語教育分野の小野ゼミでは、他のゼミでは体験、経験できないことがたくさんできます。例えば、「大学の留学生や JICA 研修生などと異文化間交流ができる!」「国内だけでなく海外の学会にも参加できる(インドネシア、アメリカなど)!」「自分のやりたい研究テーマをとことん深められる!」「調査補助として東南アジアからアフリカまで色々な国に行ける!」などなどです。

ゼミでは、時に優しく、時に厳しくご指導いただけます。ゼミ生の研究テーマも幅広く、視野を広げることができるはずです。「海外や日本で日本語を教えたい!」「人とは違うことがしたい!」というあなたにぴったりのゼミです。私たちゼミ生と一緒に色々な経験をしてみませんか!?

②田中大輝ゼミ「日本語教育学(日本語学・言語学)」

田中ゼミには、「日本語教育」に熱い思いをもつ学生が集まっています。ゼミ生同士の仲はとてもよく、和やかな雰囲気の中で助け合いながら学び合っています。ゼミでは、自分の研究について発表を行います。さまざまな経験や母語をもつゼミ生は、貴重な意見、質問、体験談を持ち寄って話し合っています。毎回新しい発見や考え方ができ、視野を広げて自分の研究に打ち込むことができます。

そして田中先生は、とても丁寧にご指導くださいます。ゼミ生の発表資料、考えや意見などをまとめる際、いつもの確かなアドバイスをくださいます。そのため、ゼミ生はお互いの研究に興味をもち、安心して研究を進めています。他にもある田中ゼミの強みは、先生とゼミ生の多くは日本語以外の言語についての知識が豊富なことです。しばしば外国語と対比させることで、日本語の特徴を客観的に捉えることができます。このように、素晴らしい先生と多様なゼミ生と一緒に学ぶ田中ゼミは、日本語教育について深く、多角的に考えることのできる素晴らしいゼミです。

5. 国際交流

鳴門教育大学では、希望すれば在学中にアジア・北アメリカ・アフリカ・北欧の7ヶ国14大学に留学することができます。その一方で、海外からの研修生(教育省職員・現職教員など)を多く受け入れていることから、学内にいながら世界中の教育事情を自身の耳で聞くことができ、世界に向けて視野を広げることができます。さらに、日本語教育分野は、海外の教育機関で日本語教育実習を行うなど、常に異文化を摂取できる環境にあります。



6. 学生の学びのスタイル

6. 1. わたしの大学院生活



吉川 巧也
 東京都出身
 修士課程 教科・領域教育専攻 言語系コース(国語)
 日本語教育分野 2年

※2016年4月時点

学部時代は他大学で日本語教育を副専攻としていました。そのとき、「より日本語教育に関する知識を深めたい」「外国で日本語を教えてみたい」という思いが生まれたため、本学大学院に入学しました。現在は田中ゼミに所属し、ロシア語を母語とする日本語学習者を対象とした動詞の習得に関する研究を行っています。

「より日本語教育の知識を深めたい」という希望に関しては、先生方が文法や音声学、第二言語習得など様々な側面から、予備知識がない学生にも分かるような授業をしてくださるので、自分自身の成長を感じ取ることができます。

「外国で日本語を教えてみたい」という希望に関しても、小野先生や田中先生に加え、国語科教育分野の幾田先生ご指導の下、キルギス共和国で日本語教育実習を行うことができました。

現在、私は修了後の進路として、博士課程進学を目指しています。指導教員である田中先生にご相談したところ、プレゼンテーションのノウハウや論文の書き方などを一から丁寧に指導してくださいました。

このように、学生の希望に応えていただける環境が整っているのが本学大学院の大きな魅力です。

・修士課程 2年次の時間割(2016年度前期)

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					日本語文法研究
5		課題研究Ⅱ			



林 ななみ
 大阪府出身
 修士課程 教科・領域教育専攻 言語系コース(国語)
 日本語教育分野 2年

※2016年4月時点

大学院に入学する前は、他大学の学部で副専攻として日本語教育を学んでいました。日本語教育を学んでいく中で、実際に海外の日本語教育現場ではどのように日本語が教えられているのかに興味をもち、韓国に一年間留学しました。その後、日本語教師になるために「もっと日本語に関する知識を深めたい!」、「日本語教育の専門性を身につけたい!」と思い、本学大学院への進学を決心しました。現在、田中ゼミに所属し、日本語と韓国語のオノマトペをテーマに研究しています。

また、大学院生の中に日本語教育の現場を経験したいと思い、大阪の日本語学校で週に2回、日本語教師として勤務しています。日本語教育分野の授業を受けた成果としては、日本語教師になる上で重要な日本語教育能力検定試験に合格しました。

鳴門教育大学の日本語教育分野では、専門的な知識を学ぶだけではなく、ボランティアとして徳島に住む外国人の方々への日本語支援、指導も行っています。授業で学んだことを活かしながら実務経験を積むことができるのも本学大学院の魅力の一つだと思います。

・修士課程1年次の時間割(2015年度後期)

	月	火	水	木	金
1				課題研究 I	
2			コミュニケーションと言語・教育		日本語語彙論
3		日本語教育学演習			
4		日本語教育法演習	教育実践フィールド研究(国語科)		日本語文法演習
5					





尾場 森

長崎県出身

修士課程 教科・領域教育専攻 言語系コース(国語)

日本語教育分野 ※長期履修生 2年

※2016年4月時点

長期履修生として言語系コース(国語)に入学したきっかけは3つあります。1つ目は、「新たに小学校教諭の免許状を取得したい」ということ。2つ目は、「自らの専門性を深めるため知識を広げたい」ということ。3つ目は、「学校現場の国際化に合わせて、教師も日本語教育を学ぶ必要性がある」と考えたことです。

他大学の学部で中学校・高等学校国語の一種免許状を取得した私は、小学校へ学習支援ボランティアに参加する機会があり、より幅広い年代の教育に携わりたいと思うようになりました。本学の大学院では、新たに小学校教諭の免許を取得しながら、中学校・高等学校の専修免許状を取得できるということもあり、本学大学院の長期履修プログラムを選択しました。それに関連して、国語に対する自らの知識不足を感じ、専門性を磨いた教師になりたいと思い、言語学分野をもっと追究してみようと進学を決意しました。

近年、国際結婚の増加などにより、外国籍の両親を持つ児童生徒や、様々な背景を持つ外国人日本語学習者が増えています。将来学校現場に出て、日本語の通じない児童を受け持ったとき、自分は何ができるかを考え、日本語教育を学ぶ必要があると感じました。

長期履修生は、入学1年目は学部生と共に免許関連の教科授業等を受講し、2年目から修士課程の授業を受講することになります。教育実習や試験勉強、模擬授業など、忙しい日々ですが、その分しっかりと教職についての勉強をしたうえで教職免許の取得ができます。全くの別分野で免許を持っていなくても「教師になりたい」という強い思いから長期履修を選択する人もいます。自分の専門分野(国語・日本語)について深く学びながら、教員になるために必要な勉強と免許の取得までできることが本学大学院の長期履修プログラムの魅力です。

・長期履修生2年次の時間割(2016年度前期)

	月	火	水	木	金
1					
2	国語科教材開発研究	子どもの発達支援	子ども理解と生徒指導	国語科授業研究	
3	日本語音声表現研究	日本語教育学研究	主免教育実習 事前指導	言語教育基礎論Ⅰ	
4	国語科教育学研究	日本語教育法研究	教育実践フィールド研究(国語科)		日本語文法研究
5		課題研究Ⅰ			

(※青字は学部で開講されている科目です。)



島津 亜希
 広島県出身
 修士課程 教科・領域教育専攻 言語系コース(国語)
 日本語教育分野 1年

※2016年4月時点

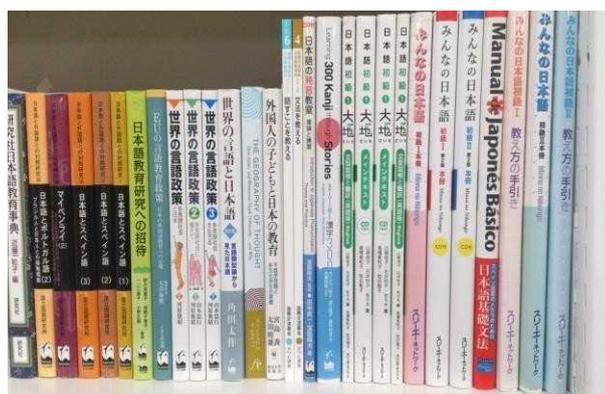
大学院に進学する前は海外で日本語教師をしていました。現地の教育現場にいる中で、「実践的な日本語教育って何だろう?」「海外で求められる教員養成について研究してみたい」という気持ちが湧き上がり、実践的に日本語教育の専門性が学べる本学大学院への入学を決めました。

現在は小野先生のゼミに所属しながらも、同じく日本語教育分野である田中先生のゼミにも参加させていただき、日本語教育に関する多くの知識を学んでいます。このように、興味があれば他のゼミへも参加できるアットホームさも魅力の一つです。他にも、学生の希望を汲み取り、実現させることを通して、学生が主体的に学べる環境が整っていることも本学の特徴かもしれません。私も実際に「日本での日本語教育の現場を見学したい!」という希望から、現在、留学生対象の日本語科目に参加させていただいています。また、実際の教育現場で実践研究を行う機会もあるので、理論や知識だけではない実践経験を積むことができるのも大きな魅力でしょう。

・修士課程1年次の時間割(2016年度前期)

	月	火	水	木	金
1			日本語Ⅱ		
2		子どもの発達支援	子ども理解と生徒指導		言語習得・発達論
3	日本語音声表現研究	日本語教育学研究			
4		日本語教育法研究	教育実践フィールド研究(国語科)		日本語文法研究
5		課題研究Ⅰ			教科内容構成(国語科)

(※赤字は留学生対象の科目です)

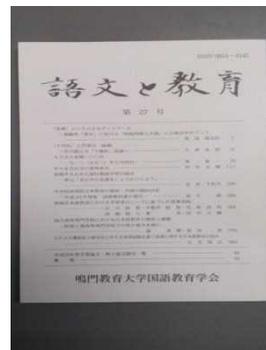


6. 2. 大学院生の研究成果の公開

大学院生が研究の成果を発表する場として、学内で修士1年（長期履修生2年）の3月に修士論文中間発表会、修士2年（長期履修生3年）の2月に修士論文発表会を行っています。

また、言語系コース（国語）の院生が中心となって、毎年8月には鳴門教育大学国語教育学会も開催されています。学会員のオリジナリティーあふれる研究発表だけではなく、院生と教員、修了生が交流する場ともなっており、研究の今後の方向性や課題を発見できる絶好の機会になっています。同学会から刊行されている学会誌『語文と教育』は、本学の教員、院生、修了生から、日本語教育学・国語科教育学・国語学（日本語学）・国文学分野の論文が多数寄せられ、読み応えのある一冊に仕上がっています。

日本語教育分野所属の学生は、研究の成果を国内外の学会で発表したり、学会誌に投稿したりして、自身の研究の成果を公開しています。



7. 日本語教育分野で学べること

7. 1. 学生からの授業レポート

日本語教育分野の科目を履修している学生に授業のレポートをしてもらいました。

<p>科目名 日本語教育学研究</p> <p>担当教員 小野由美子先生</p>	<p>日本語教育学研究の授業では、日本語教育の歴史、教科書分析、ラベルワーク、世界の言語教育などを学んでいます。</p> <p>また、リライト教材や質的研究方法などの各分野の第一線でご活躍の先生方がゲストとして講義して下さいます。さまざまな視点から日本語教育のことが学べます。</p> <p>前期の授業に日本語レッスンが2回あります。実際のレッスンを通して、自分の不足しているところなどを発見することができます。日本語教師を目指している人にとってはとても貴重な経験だと思います。</p>
<p>科目名 日本語文法研究</p> <p>担当教員 田中大輝先生</p>	<p>2015年度の日本語文法研究は、学校文法と日本語文法の違いを含む「文法とは」から始まり、テンス、アスペクト、ヴォイスといった文法事項を学びました。日本語母語話者である私たちが当たり前のように使っている言葉も、他国の人からすれば疑問だらけです。中には私たちでも答えられないような疑問もありました。</p> <p>後半には受講生による発表が行われました。日本語教科書と国語教科書における敬語の比較やら抜き言葉についてなど、様々な切り口から日本語文法について考えることができました。日本語教育分野だけでなく、これから国語に携わっていく人にも日本語について深めることができる良い機会になると思います。</p>

7. 2. 日本語教育実習について

日本語教育実習を行う場所として、国内か海外のどちらかを選ぶことができます。国内の場合は、鳴門教育大学で開講されている日本語クラス等で実施します。海外の場合は、毎年実習先が異なります。過去の実習先として、コンケン大学(タイ)、ビシュケク人文大学(キルギス)などがあります。

<p>【国内】</p>  <p>藤滝 香織</p> <p>※2015 年度修了生</p>	<p>私は大学院に入学する数年前、海外の大学で日本語クラスのアシスタントや補講を担当した経験がありました。しかし、日本国内ではボランティアとして地域の日本語教室に参加する程度の経験しかありませんでした。そのため、国内の日本語教育に関する知識や経験が乏しく、自分にとってより多くの学びが期待できる日本国内の実習を希望しました。</p> <p>全15回行われる日本語の授業の中で、実習生が担当する授業は2～4回です。そのため、初めの数回は、日本語教育経験の豊富な先生が行う授業を見学し、学習者の様子や授業の進め方等を観察することができます。その後、自らが担当する授業の目標や計画を立てます。私の実習先のクラスでは、教師が日本語で授業を進める「直接法」で行われていました。日本語は学習言語、ということに常に配慮し、配布資料にはすべてふりがなをつけることはもちろん、発言や板書の際にも語彙を選択し、話すスピードやイントネーションに気をつけながら90分間の授業を行う必要があることを、体験を通して学ぶことができました。その後も、学習者が提出した課題を通して次の授業を計画し、自らの授業の録画を見ることや、指導教員や他の実習生との反省会を通して、自らの授業を客観的に振り返る機会が多くありました。</p> <p>これらのすべての過程で、指導教員の先生から丁寧な指導を受けることができ、また多くの資料をお借りすることができたので、さらに学びが深まりました。これは、国内、特に自らが所属する大学で実習する大きな利点だったと感じています。</p>
<p>【海外】</p> <p>※国立大学 (タイ)</p>  <p>戒田 優</p> <p>修士課程2年生</p> <p>※2016年4月現在</p>	<p>私は現在、言語系コース(国語)に所属しています。昨年度、日本語教師養成プログラムの集大成として、海外での日本語教育実習を希望しました。</p> <p>2015年11月23日(月)から11月27日(金)までタイ王国コンケン市を訪れました。その内、11月26日(木)と11月27日(金)の2日間に渡り、ガンラヤナワット学校という現地の学校で日本語教育実習を行いました。</p> <p>まず、11月26日(木)の実習では、中学1年生の外国語科目「日本語」を選択する生徒を対象に、カタカナ、ひらがな、数字を使ったかるたで日本文化を学ぶという授業を行いました。そこでは、生徒たちが楽しみながら日本語を学んでいる姿をみることができました。そして、11月27日(金)の実習では、高校2年生の外国語科目「日本語」を選択する生徒を対象とした授業を受け持ちました。日本文化を楽しみながら学べるように、すごろく形式にした授業を行ったのですが、今までの既習内容を組み込みつつ、日本語を使って活動が行えるように工夫をし、教師も生徒も一体となって参加することができた授業になりました。</p> <p>私は、海外での日本語教育実習を希望して、自分の視野が広がったと感じています。ぜひ、皆さんも、鳴門教育大学大学院の日本語教育分野で、学んで下さい。</p>

8. 修了後の進路

言語系コース（国語）の修了生は、日本国内のみにとどまらず、世界をフィールドに活躍しています。

・国語科教育学・国語学・国文学分野

小学校教員、中学校教員、高等学校教員、連合大学院(兵庫教育大学・上越教育大学・岡山大学・鳴門教育大学)の博士課程後期進学、他大学の博士課程後期進学など

・日本語教育分野

小学校教員、中学校教員、高等学校教員、日本国内の大学非常勤講師、各都道府県の国際交流協会日本語講師、国際交流基金日本語専門家、青年海外協力隊日本語教師、母国の大学での日本語教師(留学生)、旅行会社(留学生)、連合大学院(兵庫教育大学・上越教育大学・岡山大学・鳴門教育大学)の博士課程後期進学、他大学の博士課程後期進学など

修了生からのメッセージ



宇都宮 絵里
※2013 年度修了生

鳴門教育大学大学院を修了した現在、大阪府にある小学校に勤めています。勤務校には、外国にルーツのある子どもが数名いますが、今は日本語指導などに直接関わっていません。しかしながら、大学院在学中に日本語教育や年少者日本語教育を学んだことで、多様化する子どもたちを理解できるようになりました。また、外国人児童に対する教材作りについても知ることができました。これは普通学級の子どもたちにも応用できるものだと思います。今後、年少者日本語教育に携わることができれば、大学院で学んだことを活かし、少しでも子どもたちの役に立ちたいと思っています。



曹 芳
※2013 年度修了生

私は鳴門教育大学大学院で日本語教育分野を修了した後、横浜の日本語学校で留学生の教育に従事しています。

現在、中国人クラスとベトナム人クラスの2つの進学クラスを担当しており、中国人クラスの担任も務めています。主な仕事内容は、通常授業の実施に加え、進学指導のための「日本留学試験対応」「日本語能力試験対応」「小論文・面接指導」などであり、自身が日本留学で経験してきたことを学生たちに直接伝えることができます。鳴門教育大学大学院で得られた日本語教育に関する専門知識や経験を日本語学校で実際に生かしていくうちに、「クラスを持つのは、そのクラスの学生の将来を左右する存在になるということだ」という教師としての責任感や「年齢層やバックグラウンドが様々な留学生に対応し、まとめ上げる柔軟性や統率力が必要だ」ということを実感させられました。

日本語教師というのは大変な職業ですが、その分やりがいもあります。様々な留学生と出会い、その学生たちが夢に少しでも近づけるように彼らを支援できる、その喜びは言葉では言い尽くせないものだと思います。

9. お問い合わせ先

鳴門教育大学 〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748

教職免許に関すること

教務企画課 教務企画係

メールアドレス:kkikaku@naruto-u.ac.jp

電話番号:088-687-6095

大学院教務に関すること

教務企画課 大学院教務係

メールアドレス:daigakuin@naruto-u.ac.jp

電話番号:088-687-6097

大学院入学試験に関すること

入試課 大学院入試係

メールアドレス:nyushidaigakuin@naruto-u.ac.jp

電話番号:088-687-6131

ホームページ

鳴門教育大学

<http://www.naruto-u.ac.jp/>

鳴門教育大学大学院言語系コース(国語)

<http://www.naruto-u.ac.jp/course/japanese/index.html>

10. 大学へのアクセス (詳しくは本学のホームページをご覧ください。)

・大学周辺MAP

